

14. 住宅地・商店街をつなぐコミュニティリンクとウォークイベント

神戸復興塾
(兵庫県神戸市)

I. 活動の背景と目的

(1) 活動の背景

神戸の震災復興のハード面はほぼ達成したが、景気低迷もあり、復興のソフト面、実質面、生活面は立ち遅れている。特に被災地の商店街の活性化と住宅地の人口回復、さらには両地区を結ぶ町全体のソフト面の復興の必要があった。

(2) 活動の目的

商店街を軸として、住宅地を結ぶウォークルートを開発して、住民がルートを歩き、ルートを育て、沿道の店や建築および人を訪ねて出合いを暖めることを通して、町の活性化を達成し、神戸のソフト面の復興に寄与する。



住宅地

II. 活動の内容

(1) 概要

激震被災を受けた灘区において、町が持つポテンシャル(道、店、建物、風景、アミューズスポット等)を調べて、ウォーキングコースを予め仮設定した。次に、ウォークイベントを開催してコースとスポットを再評価し、メインルートとスポットの再設定を行い、商店街と住宅地を結ぶウォークルートとして提案した。このプロセスで、地域を見直す若者グループ、商店街や住宅地の人々と連携でき、今後も継続してソフト面の内容の充実を図っていく。



商店街 (水道筋)

(2) ウォークイベントの開催

①目的

- ・一般の人、あるいは散歩好きの人に実際にまちを歩いてもらい、どんなこと、ものがおもしろいと思うのか、関心があるのか、など一般の人がどんな散歩をしているかを我々が知るための基礎的資料とするため。
- ・参加者への当日の手帳配付と結果郵送は、イベントだけで終わらず、継続してデータの収集をするとともに、参加者の散歩日常化を狙った。
- ・今後の展開として、年に数回、交流会を開催し、発表の場を設ける。あるいは、順番にメンバーが案内者となって、みんなでまちを歩くことにより、散歩クラブの設立の可能性を探る。

②当日の流れ

日時：2000年11月26日（日） 11:00～16:00

■プログラム

ステップ1：オリエンテーション

11:00・あいさつおよび主旨説明

・流れの説明、まち歩き注意事項

ステップ2：まち歩き

11:15・お昼は各自で食べて、おやつを各自購入

ステップ3：オリジナル手帳作成およびルート記入

14:30・まち歩き終了後に、1枚の模造紙大の地図にルート、お気に入りポイント1つ、お昼を食べたところを記入してもらい、同時にコマンドに沿って撮影したポラロイド写真を手帳に貼り付けコメントを書いてもらい、手帳を完成させた。

ステップ4：発表、意見交流

14:55・各人にルート、お気に入りポイント、感想を発表してもらい、意見交換を行った。最後に、イベントの感想、歩いたエリアの印象などをアンケートに記入してもらった。



まち歩きの前のオリエンテーション



まち歩きの様子

③イベントのまとめ

参加者（20人）

性別：男性11人 女性9人

年齢：20歳代6人 30歳代6人 40歳代3人 50歳代4人
不明1人

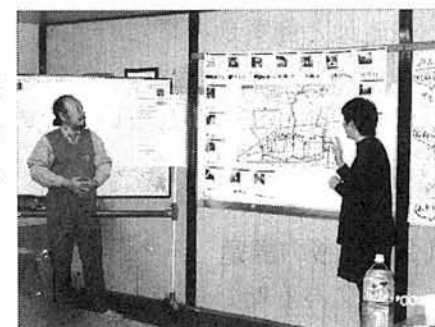
住所：灘区9人 神戸市内7人 神戸市以外4人

職業：会社員17人 学生1人 主婦2人



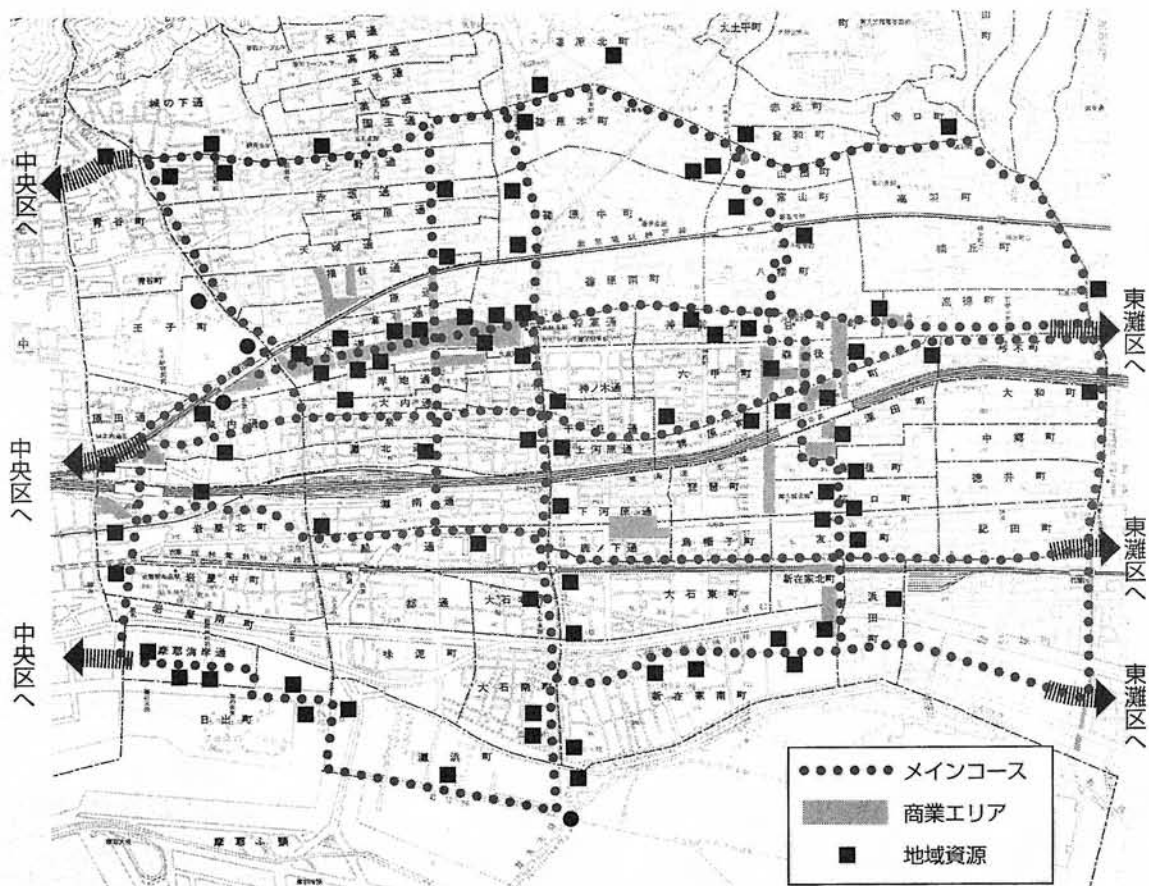
ウォーキングルートを記入

- 散歩キット（エリアマップ、手帳等）を持って歩くことで、まちを再発見できて、情報交換し、今後も内容を深めたいとする人が出てきた。
- お気に入りスポットは、公園、川、路地、街並み、出会った人、空地の緑、洋館、喫茶店、海への眺望、市場の人、神社境内での蚤の市、川のアメンボ、神社のおみくじなどまさに十人十色のものが抽出できた。
- ルートとしては各自の任意にまかせたが、概略集約されるコースが見い出された。



参加者発表

(3) ウォークルートの設定と地域資源スポットの連携



III. 活動の効果及び今後の課題

(1) 効果

- ・町を歩くことにより、町を楽しみ、町の資源を再発見していく機会をつくり出すことができた。
- ・若い世代が地域に目を向けるきっかけをつくり出すことができた。
- ・住宅地と商業地の新しいネットワークになり得る可能性を見出すことができた。
- ・既存団体にとらわれない市民の自由な参加へと広がっていく可能性を感じた。

(2) 今後の課題

- ・地域にある魅力資源を日常的かつ有機的に活用する仕掛けづくり。
- ・商店活性化、景観整備、住民コミュニティづくり、市民の健康向上、バリアフリーの道づくり等、既存の道の活性化をめざした整備提案。
- ・道を軸として、住民同士を出会わせ、より良い復興のソフトまちづくりのきっかけの育成
- ・今回は灘区をモデル地区として活動を行ってきたが、今後は市内7区への波及展開を行っていく。